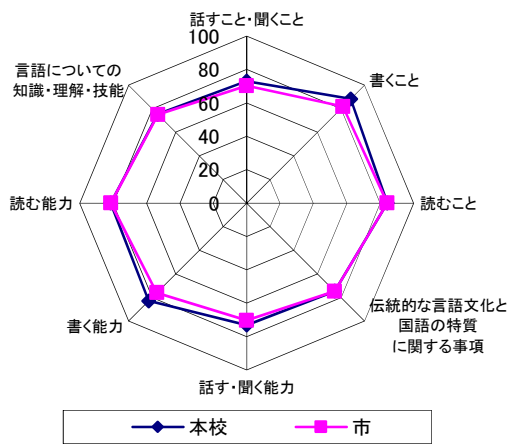


宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	73.1	70.3	68.2
	書くこと	88.4	81.7	80.6
	読むこと	84.3	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.6	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	73.1	70.3	68.2
	書く能力	82.8	76.0	74.1
	読む能力	81.4	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	75.3	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

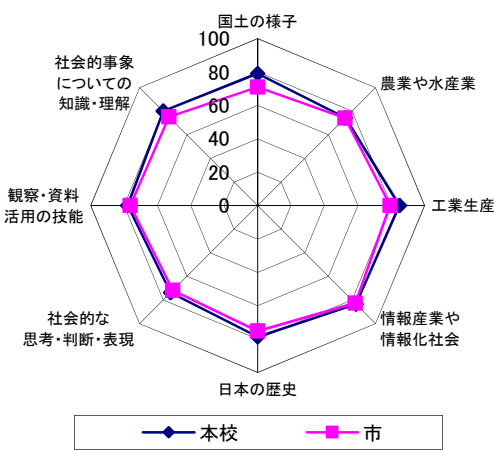
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均正答率を2.8%上回っている。 ○聞き取りテストでは、話し手の意図を考えながら、話合いの内容を理解する設問がよくできていた。 ○与えられた情報を読み取り、話合いの観点をふまえて、意見を一つにまとめる設問がよくできていた。 ●与えられた情報を読み取り、話合いの観点に基づいて情報を関係付ける設問の理解が不十分であった。	・話し合い活動では、話し合いの観点を明確にし、集めた情報や出された考えの共通点や関係性を考える活動を取り入れることで、情報や考えのつながりを自分たちで見い出せるようにしていきたい。
書くこと	市の平均正答率を6.7%上回っている。 ○文字数、段落構成など、定められた条件に沿って、読み取った事実をもとに自分の意見を書くことができていた。	・国語科に限らず、各教科の学習でも、自分の考えを書く場面を増やし、書くことへの抵抗を少なくしていく。 ・文字数、段落数、接続詞・自分の体験の挿入など、定められた条件のもとに作文する学習を行い、文章を書く力をさらに鍛えていく。
読むこと	市の平均正答率と同じ結果となっている。 ○登場人物の会話文、行動描写をもとに、心情を考える設問はよくできていた。 ●説明的な文章では、内容を的確に読み取る設問の理解が不十分であった。 ●文学的な文章では、登場人物の会話文、行動描写をもとに、人物像を読み取る設問の理解が不十分であった。	・読書の習慣化を図り、様々な分類の本を読むよう指導していく。説明的な文章を読む機会が少ないため、新聞を活用した授業を行うなどして、説明的な文章自体に慣れるようにする。 ・会話文、行動描写、情景描写、色などに着目させながら、登場人物の心情を推察する学習活動を展開し、心情理解を深められるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均正答率を0.1%下回っている。 ○漢字の読み書きの設問はよくできていた。 ●連体修飾語、同音異字、国語辞典の使い方の理解が不十分であった。	・修飾語については、練習問題などを活用して取り組むとともに、文学的な文章、説明的な文章の中で、折にふれて注目させ、理解を深めていく。また日記や作文で、積極的に活用するよう促すことで定着を図っていく。 ・国語辞典を授業の中で積極的に活用していく。その中で語彙を増やしていけるようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	79.1	71.0	69.4
	農業や水産業	74.4	74.0	69.0
	工業生産	85.0	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	83.5	82.8	88.7
	日本の歴史	78.6	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	73.6	71.9	67.2
	観察・資料活用・技能	77.8	76.3	70.7
	社会的事象についての知識・理解	80.0	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

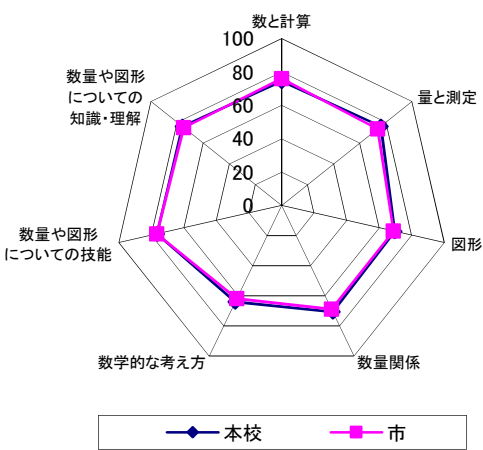
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	市の平均正答率を8.1%上回った。 ○日本周辺の国名や海洋についての基礎的な知識はしっかりと身に付いている。 ●日本の主な山脈・川・平野の名称についての理解度は、市の平均を上回っているが、62.4%と不十分である。	国名や海洋・などの名称や位置関係など、地理的な基礎知識が定着できるようにするために、社会科の授業だけではなく、その他の教科や活動においても、地図帳や地球儀を使って調べる活動を取り入れていく。
農業や水産業	市の平均正答率とほぼ同じである。 ○稲作の工夫や日本の主な食料生産物などについての正答率はどちらも80%を超えており、農業や水産業についての知識や資料を読み取る力が高い。 ●日本が抱えている食料自給率の問題についての理解は不十分である。	食料自給率の仕組みや現状を理解するために、図や映像など視覚効果の高い資料を中心にもう一度知識や概念を整理する。さらに、学んだことを自分の言葉で友達に解説するような場面を設定することで、自給率についての理解を高めていく。
工業生産	市の平均正答率を5.6%上回った。 ○工業生産に従事している人々による、環境保全のための工夫や努力については、よく理解している。	工業生産に関わる人々の働きや外国との関わりなどの基礎的な事項を、教科書やグラフの読み取りをもとに復習するなどを、家庭学習を中心に設定していく。
情報産業や情報化社会	市の平均正答率とほぼ同じである。 ○テレビや新聞などのマスメディアについての基礎的な知識はしっかりと身に付いている。 ●医療現場での情報ネットワークを生かした仕組みについての理解が不十分である。	情報化社会の現状や情報の扱い方などについて、児童が理解をより深めるために、社会科の授業だけではなく学級活動などで、自分の考えを持って話し合うような場面を設定していく。
日本の歴史	市の平均正答率を3.4%上回った。 ○どの時代の問題においても、歴史事象についての基礎的な知識の正答率は高く、おおむね定着している。 ●複数の資料をもとに考え、自分の意見を文章で表現する問題の正答率は、どれも市の平均を超えてはいるが、約70%と高くない。	複数の資料を児童に提示し、それらの資料から考えられることを挙げさせ、自分の言葉で書いたり話したりして説明できるような授業を展開していく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.5	76.1	73.5
	量と測定	76.1	73.6	70.1
	図形	69.5	68.8	66.6
	数量関係	70.7	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	64.0	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	76.5	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	75.9	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

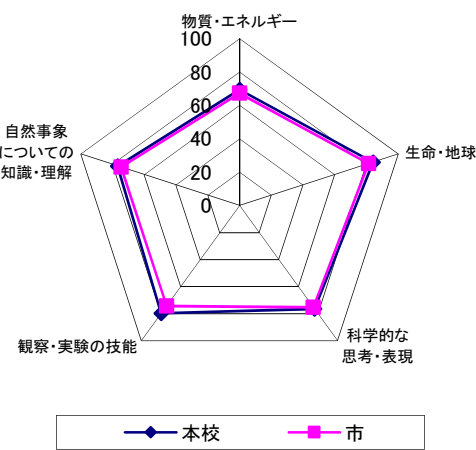
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を1.6%下回っている。 ○小数の除法に合った式を選ぶ問題では9.1%、もとにする量×倍の式が求めているものでは2%、正答率が上回っていることから、式の意味を理解しているといえる。 ●小数のかけ算、わり算や分数のたし算については、いずれも市の平均正答率を下回っている。	・計算力はおおむね80%は超えているものの、小数の計算において、小数点の位置を誤ったり、分数では通分や約分を誤ったりすることが多いので、計算問題に多く取り組ませることで更に正確さを高めていく。 ・文章問題の練習も取り入れ、問題を「正しく読み取る」力や、解き方を「順序良く考える」力を養っていくことで学習内容の定着を図っていく。
量と測定	平均正答率は、市の平均を2.5%上回っている。 ○道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶ問題では、91.7%の正答率である。 ●「面積と体積」の高さが図形の外にある平行四辺形の問題では、正答率が55.3%と低い傾向にある。	・「単位量あたりの大きさ」と「速さ」の問題は、つながりがあるので「くらべる量」「もとにする量」などの関係を十分におさえさせなければならない。数直線や図などを用いて考え、説明する活動を増やししながら定着を図っていく。 ・文章問題では何を問われているのかを正確にとらえられるようにしていく。
図形	平均正答率は、市の平均を0.7%上回っている。 ○合同な三角形の作図は、93.9%の正答率である。 ●点対称な図形を選ぶ問題は、市の平均を2.7%下回っている。また、線対称な図形の対応する点を見つける問題や、六角形の内角の和を求める問題では正答率がそれぞれ52.3%、53.0%と低い傾向にある。	・「対称な図形」では、作図を多く取り入れることで、対応する点や辺を確実にとらえられるようにしていく。 ・「正多角形」の内角の和は、三角形をもとにして計算できることを習熟させる。
数量関係	平均正答率は、市の平均を1.8%上回っている。 ○「文字の式」の問題は、いずれも市の平均を上回っている。 ●反比例の表を読み取る問題では、正答率が38.6%と低い傾向にある。	・ともなって変わる量については、一方が増えともう一方はどうなるのかをよく考えさせ、正しく理解できるように繰り返し指導していく。 ・「割合と比」では、実生活に結び付けた問題を解くことで割合の意味を理解させ、習熟を図る。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.5	67.3	64.4
	生命・地球	84.1	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	76.5	75.3	72.6
	観察・実験の技能	79.8	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	76.8	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均を2.2%上回っている。 ○「ふりこのきまり」「物のとけ方」の正答率が高く、示された実験結果をもとに、よく考察をすることができている。 ●「電気のはたらき」では、電流の向きを変えたときの極の向きを推測する問題やコイルの巻き数を増やすと電磁石が強くなることを説明する問題の正答率がやや低かった。	○電磁石のはたらきでは、実験の結果を再度整理し、電流の向きと電磁石の関係などを図や実験結果の表を用いて自分の言葉で説明できるように指導していく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均を2.8%上回っている。 ○「植物のつくりとはたらき」「動物のからだのつくりとはたらき」に関する正答率が高く、動植物に関して十分な理解がなされている。 ●「生物とかんきょう」では、水中の生物について「食べる」「食べられる」の食物連鎖の関係を表す問題の正答率が市の平均よりも2.2%低かった。	○食物連鎖は陸上だけでなく、水中や空中でも起こっていることを実際の動物の絵を使用しながら想起させ、図で表しながらまとめていくことでそれぞれの動物たちの関係を整理し、「食べる」「食べられる」の関係を理解できるようにする。